



節分・立春は一年の節目の日

二月四日、節分の翌日である立春の日の朝は、萩市内のハトが喜ぶ日です。この日の朝には、浜崎地区をはじめとした市内の四つ角に、節分の豆を包んだ紙包みが出現します。自動車のタイヤで粉砕された黄な粉のような豆を、目にされた方も多いことと思います。

萩地域においては、節分の夜に、人に出会わぬよう近くの四つ角に向き、節分の豆を包んだ紙包みを、背中越しに捨て置いて後を振り返らず帰って来るといふ風習が伝わっています。厄落しや災い除けのためと説明されることが多くあります。厄落しの場合、歳の数ほど豆を包むとも伝えられています。

今は少なくなりましたが、かつて県内の多くの地域では、同様のことがかなり一般的に行われていました。豆を火吹き竹に詰めて立てていたとか、橋を渡って豆の包みを捨て置いて帰ったとか、ムラ境に向いて置いて帰ったなどと伝える所もあります。

なぜこのような風習が始まり、今に伝わっているのでしょうか。それは、節分の日の夜をトシノヨと呼ぶ人が少なくないことと関りがあっているように思います。近年トシノヨは、暦の上での大晦日を指しますが、萩地域をはじめ山口県内では、昔から節分を一年の終わりとし、春が始まる立春を一年の始まりとする意識があったようです。

萩地域においては、節分の日に、鬼に代表される災いを防ぎ遠ざける様々な風習が伝わっています。多くの方が行われている豆撒きをはじめとして、所によつてはトゲのある木(タラノキ)を家や屋敷地の出入り口に立てるとか、炭火の上にはイワシを置いて燻ぶらせ、その臭気を家の内外に漂わせて鬼(災い)の侵入を防ぐといったことが行われています。

その他にも、節分の日にコンニャクを食べるといふ家庭が多くあります。スナオロシ(砂下ろし)などと呼び、一年の間に溜まった体内の毒を外に出すためにこれを食べると説明されます。また、「大きく歳を取るために(かつて数え年は正月にとつていた!)」



中村船具店横の四つ角(節分の翌日)



出入口傍らに立てかけられたタラの木

と、「クジラを食べます。イワシ一尾を丸ごと食べるとする家もあります。それ

が広く定着しているからか、節分前のスーパーの折込みチラシでは、クジラやイワシの売り出しが広告されます。

いかがでしょうか。萩地域の人は、年の始まりを迎えるにあたり、体の中も家・屋敷地の中も、災いが入り込まないように入念に調べました。そしてその上で、クジラの大きな生命力や、イワシ一尾の生命力を丸々体内に取り込んで、新たな年を元気に過ごそうとしてきました。

その中で行われる四つ角における厄落とし・災い除けです。実は、後を振り返らないというのは、多くの地域で葬儀における野辺の送りから帰る際の作法でもありました。出向く四つ角は道の交差する場所で、こちら側にもあちら側にも属さない、言い方を変えるとこの世とあの世の境界とみなすことができます。かつて人々は、新たな年が始まるにあたり、あの世の近くまで出向き、厄や災いを託した豆を捨てることでそれらをあの世へ送り出し(自身の葬儀を行い)、新たに生まれ変わって帰ってきていた! そして一年を

元気に過ごそうとしていた!と解釈することはできないでしょうか。興味深い風習に想像がふくらみます。どうぞ穏やかで心豊かな一年となりますように。清水満幸

おはらいの神様 **住吉神社**

節分厄除け星祭り

令和7年 2月2日(日)

福豆・福餅まき 午後7時頃 小雨決行 (状況により内容を変更する場合があります)

どんど焼き 夕刻~午後9時

厄除けおはらい 毎日随時

大厄

男	昭和40年生れ	昭和59年生れ	平成13年生れ
女	昭和40年生れ	昭和64年生れ	平成1年生れ
	平成5年生れ	平成19年生れ	

(この前年が前厄、後年が後厄)

無料 相島の焼きいも (なくなり次第終了)
市民の生命と財産を守る地元の消防団 提供 明倫第3分団

神社山門修復のための寄進を募集しています
お問い合わせは住吉神社まで

住吉神社 電話 22-0849



節分の日のスーパーの特設コーナー

浜崎のみなさん ニんにちは
「本と美容室 萩店」



書店担当をしている 瀬木 広哉 (左)
美容師の 濱元 まどか です。



があり、コーヒーなどのドリンクも提供しています。カット、カラー、パーマはもちろん、ヘッドスパも行っています。

一昨年、萩市ビジネスチャレンジサポートセンターの獅子野美沙子センター長からのご連絡を機に、萩を訪れました。私にとっては中学の修学旅行以来、2度目の来萩。街並の美しさに目を見張り、食べ物のおいしさに感動し、等身大で自立した人々の姿に好感を抱きました。思えばあの時が、運命の歯車がカチリと回った瞬間でした。

私も濱元も、お客さまからよく「どうして萩に？」という質問をいただきます。出店先選びは僕らにとって結婚に近く、どんなに理屈をつけても、最終的には「直感的にここだと思ったから」としか言いようがありません。自分たちで選んでやってきた街だからこそ、本屋さんでも美容室でも日々努力しながら、できるだけ高いレベルの選書、美容技術をご提供したいと思っています。

春にはまた素敵な仲間が2人加わる予定です。美容室だけでも、雑貨や本を見るだけでも、コーヒーを飲んでゆっくりするだけでも、いろんな使い方をさせていただけるお店です。ぜひ気軽にお越しください。

私(瀬木)は昨年12月に、濱元はこの1月に正式に萩に移住しました。濱元の紹介を含め、瀬木が書かせていただきます。

私は兵庫県出身。以前は共同通信という報道機関で記者として働き、書籍に関する取材を長く担当していました。本を読んだり、作家に話を聞いたりすることが仕事になる幸運な環境で過ごし、おかげで本の世界の一端を知ることができました。3年前に前の職場を退職し、この店を運営する会社「アタシ社」の仲間に加わり、今に至ります。

濱元は沖縄の出身。東京のサロンなどで6年ほど勤務したのち、本店の人材募集に応募してきてくれました。聞くと、以前からアタシ社の本を読んでくれていたそうです。当社の美容室部門の技術責任者・菅沼政斗は、技術に定評のある東京・表参道の有名サロン出身なのですが、濱元はそんな菅沼の下で半年にわたる厳しいトレーニングを受けました。社内の試験を通り、昨年12月に晴れてスタイリストデビューしました。優しさが全身から溢れ出るような、素敵な美容師さんです。

私も、濱元も、数年前には今のような生活を想像すらしていませんでした。神奈川県は三浦半島の南端にあるアタシ社はもともと出版社で、やがて美容室も経営するように。そうした中で「本」「美容」「ローカル」という会社の三つの軸を掛け合わせ、基幹事業として生まれたのが、現在萩を含めて2店舗ある「本と美容室」です。昨年6月にオープンした萩店には本・雑貨の販売スペースと美容室スペース



こだわりの雑貨や食品も販売しています。

本と美容室萩店 浜崎一区 TEL 080-4447-8534

西光庵 (さいこうあん) の改築が完了しました 浜崎新町1区



老朽化していた西光庵(常念寺観音堂)が改築され、一月十七日に落慶法要が営まれました。堂内には金色の阿弥陀様を中央に千手観音、馬頭観音、不動尊など高さ60cm前後の三十三体の立像座像が安置されています。制作年代は定かではありませんが、往時の金箔や彩色もうつすら残り、その美しさに引き込まれます。また、軒下には江戸期から明治初めにかけての霊場巡りの奉納札も掛けられています。五月のおたから博物館では公開して頂く予定です。ぜひご覧になってください。



お雛様の展示 始まりました



4月3日まで、山村家・山中家他会場で、浜崎のお雛様が飾られます。どうぞお越しください。

◆編集後記◆
立春を
迎え新し
い一年が
始まりました。今年も住吉神社、しつちよる会、浜九会などの行事で賑やかに盛り上げ、楽しんでみましょう。
編集委員
宮田・川久保・岩崎・石村・平野・末益